

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070600517		
法人名	社会福祉法人 年長者の里		
事業所名	グループホーム八幡	ユニット名	Aユニット
所在地	福岡県北九州市八幡東区大蔵3-2-1		
自己評価作成日	平成25年8月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7-6		
訪問調査日	平成25年9月12日	評価結果確定日	平成25年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から11年が経過した。開設当初から入居されている方が数名おられる。グループホーム八幡は「地域密着」をモットーに地域のイベントに積極的に参加している。食材などの仕入れも地元商店街から購入している。行きつけの理容院は歩いて行ける距離にあり、何度も通ううちに店主とも「馴染みの関係」ができてきた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地の中に、同法人が運営する高齢者複合施設や診療所が集積しており、地域の福祉拠点としての役割を担うとともに、職員育成や情報の共有等をサービスの向上に結び付けるべく、日常的に連携を図っている。地域との合同で開催される納涼祭は、千人を超える参加を得て盛況に開催されており、地域の一大イベントとなっている。日常の中でも、買い物や外食等は地域の商店街やスーパーを利用し、近隣の酒蔵開きには、家族とともに入居者全員で参加する等、地域との馴染みの関係を積み重ねている。開設して12年目を迎え、当初から入居されている方もおり、重度化へと移行している中にあるが、管理者、職員は、個別の支援を念頭に置き、介護力やスケールメリットを発揮しながら、外出や社会参加の機会を確保している。また、もの忘れ外来が設置されている診療所が併設されており、日々の健康管理はもとより、状態の変化にも迅速な対応が可能となっており、本人、家族にとって大きな安心感となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とホームの理念に「地域との密接な関係作り」を掲げており、職員はその精神に則って介護を行っている。	法人理念のもとに、地域密着型サービスとしての6項目のモットーを掲げている。職員間で作成されたものであり、朝礼時やカンファレンスの際に確認し、共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の夕涼み会・地域の酒蔵開放イベント・市民センターまつりなどの行事には、積極的に参加している。	敬老会や近隣の保育園行事(運動会・おゆうぎ会・夕涼み会等)、市民センターでの祭り等、地域の行事には積極的に参加している。また、近隣で酒蔵開きのイベントがある際には、入居者全員及び家族とともに参加している。外食や買い物も、出来る限り地域の商店街やスーパーを利用している。法人として、町内会との共催となる納涼祭を開催しており、千人を超える参加を得て、地域の一大イベントとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症に関する知識などを伝えている。23年7月には九社連老人施設協議会において、グループホーム八幡の取り組みを研究発表した。その発表を運営推進会議において、報告した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価を配布し、重要ポイントを説明している。それを基に話し合いをおこない、意見や感想を取り入れている。	運営推進会議には、入居者、家族、複数の地域代表者、地域包括支援センター職員の出席を得て、定期開催されている。また、成年後見人や実習生が参加する機会もある。日常の様子を伝えたり、身体拘束について意見を交わす等、意義のある開催となるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員を運営会議の委員として参加していただいている。2ヶ月ごとの運営会議の案内の際には、どのような問い合わせが多いかなどを伺っている。	区役所での手続き等がある際には、入居者とともに出向くことも多く、顔なじみとなっている。また、年2回開催される区主催の交流会や、法人としての研修に市の職員を講師として招く等、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な職員会議の中で、身体拘束について勉強をしている。また、外部の身体拘束に関する研修にも参加し、そこで学んだことを職員会議に反映させている。	身体拘束やリスクマネジメントについて、外部研修参加や、法人全体及び事業所としての研修計画の中に位置付け、継続して意識を高める機会を持っている。安易な拘束とならないよう、家族や運営推進会議参加者等との共有認識を図り、医療関係者との協議や生活環境整備の工夫等、様々な視点からアプローチを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員会議の中で、虐待について勉強をしている。また、外部の虐待に関する研修にも参加し、そこで学んだことを職員会議に反映させている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる。職員は成年後見制度に関する研修に参加し、そこで学んだことを職員会議に反映させている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、外部研修参加や内部での伝達により、職員は理解を深めている。また、運営推進会議には、成年後見人の出席も得ており、情報提供も行なわれる機会もある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には十分な時間を取り、契約内容について不明な点などは、気軽に聞くことができる姿勢をとっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置している。また、面会の際には積極的にご家族との接触を図り、そこで出た意見を運営に取り入れている。	法人として、第三者機関である福祉オンブズマン委員会を設置している。意見箱は、定期的に委員により開錠され、また、直接郵送できるよう案内も行われている。これまでに、利用者アンケートの実施や家族に意見用紙を送付した実績もある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、介護主任を介して、管理者に運営上の意見や提案をおこなっている。それを基に「風通しの良い職場」を作っている。	月例の職員会議や日常の業務の中で、職員意見の収集に努め、法人全体での会議にて検討され、フィードバックされている。介護主任が間に入り、ホーム長に提案を行うことで、風通しのよい関係作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の定期的な昇給、パート職員から正職員への登用を積極的に行っている。資格取得(介護福祉士・ケアマネジャー)が出きるよう休日等配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法律に則った募集・採用を行っている。定年後の再就職として介護している者も多くなる。ここ6年ほどは、職員の大きな入れ替わりもなく、認知症介護における「親しみのある介護」が行えている。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行われていない。法人としての資格取得体制や研修体制の整備、また、職員個々が、年1回外部研修に参加できる機会を持つ等、スキルアップへの支援は充実している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時に必ず人権研修を行っている。	外部研修の参加機会が多く、内部での伝達を図り、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。法人として、市民センターでの認知症啓発活動も行っている。	

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は順番に様々な研修に参加する機会を確保している。それを日常業務に反映させている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講義に出席した際は、他事業所職員と積極的に交流し、意見を交換している。また、八幡東区グループホーム交流会にも参加し、他事業所との交流の場がもうけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない方には、他入居者との接点を増やしたり、職員とのなじみの関係が築けるように、積極的に接している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用がはじめての方が多く、ご家族も不安を抱えていらっしゃる方が多い。電話や面会を通じて、本人の様子を細かく伝えている。また、要望・意見は遠慮なく言っていたくような雰囲気を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」の支援を見極め、家族や友人などのインフォーマルな人たちと連携をとっている。外出の付添や食事介助等の支援がある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの心身の状態に応じた、暮らしの中の作業をして頂いている。掃除や洗濯、行事での食事作り等である。職員と共に行う事を基本としている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設運営に協力していただき、花の世話や、散歩にも一緒に行っていたりなど、一緒に介護を行うようにしている。レクレーションにも参加を募っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に面会者の制限はしていない。事前の連絡があれば宿泊も可能としている。	居室に仏壇を持ち込まれている方も多く、日々のお供えを継続したり、お寺へ管理の手続きに同行している。また、3名の方が居室に電話を設置している。馴染みの美容室へ、車椅子で10分の道のりを通ったり、これまでに、県外の出身地への旅行に同行した経緯もある等、関係性の継続を大切に捉えている。	

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席位置など、孤立しなくて済む環境を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の理由は常時医療の管理が必要になったため「長期入院」が多い。契約解除後もお見舞いに行くなどし、ご本人が新しい生活に移行しやすい支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で希望などを言えない方が多いので、日ごろの生活や一瞬に「笑顔」をヒントに、入居者が求めているものを探るようにしている。	ユニットにより異なるが、センター方式を参考にした独自のアセスメント様式を用い、情報収集を行っている。入浴時や就寝前等、1対1になれる場面での何気ない会話から、気づきを得ることも多い。申し送りや定例会等にて、職員間での共有や検討を行い、思いや意向の把握につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握していないキーパーソンも多い。ケアマネジャーから情報を仕入れたり、日ごろの会話の中で、入居者の歴史、サービスに至った経緯を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、一人ひとりの現状の把握をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できる限り、計画作成会議にはご家族にも出席していただいている。また、日ごろの会話の中からご希望などを取り入れている。	ユニットにより、アセスメントの実施状況が異なる。本人、家族の思いが反映され、日々の散歩や個性ある日課等が具体的に盛り込まれた介護計画が作成されている。日々の実施状況の確認や総括表を作成し、現状の確認と見直しの必要性について検討を行っている。	法人内の専門職の連携等、スケールメリットを発揮できる環境にあり、これらを計画の中にも具体的に示すことで、更にチームケアが充実していくことと想われます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一瞬の会話や、日常の様子を細かく記録しており、その内容を職員間で共有している。		

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の同一敷地内に高齢者施設・介護事業所があり、在宅時のヘルパーやデイサービス職員や利用者や顔見知りであり、日々の交流行われている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日は散歩に行くので、地域の人と挨拶をする関係が保たれている。また盆踊りに参加したり、地域のまつりに参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方は、併設の医院が主治医になっており、2週間に一度は往診もあり、日ごろから支援を受けることができる。	階下には、もの忘れ外来が設置されている医療機関が位置しており、2週間に1回、訪問診療が実施されている。専門医等への受診については、家族との連携も図りながら支援を行っている。併設医療機関を受診していた方が入居となるケースも多い。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは密に連絡を取り合っており様子を報告している(痰が多い、足が腫れているなど)。主治医と訪問看護師、介護職員の連携は同一建物にあり連携はスムーズである。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員やご家族との情報交換は密に行い、職員はできる限りお見舞いに行くようにしている。入院受け入れがスムーズに運ぶように協力病院と契約を交わしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護には、医療との連携が不可欠であり、日ごろから医師との密接な関係を作る努力をしている。ご家族にはホームでは対応できない事柄を入所時に説明している。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に指針をもとに事業所の方針を説明し、同意を得ている。医療・福祉の関連施設が集積する中であり、状況の変化に伴い、法人内の連携も含めた対応について話し合いを重ね、方針を共有している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象に訓練や講習を行っている。		

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、入居者も避難場所までに避難を行っている。法人全体の訓練では地域住民と一緒に訓練をしている。	年1回、法人全体の訓練が実施され、消防署や地域住民との連携を図っている。また、各施設ごとに、夜間想定を含む複数回の訓練を、出火場所の想定を変更しながら実施している。また、定期的に、職員の緊急連絡網の確認を、事前連絡無しに行っている。地震体験車を用いた防災研修にも参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これは「人権」や「言葉の暴力」などにもつながっているので、個々を尊重した言葉かけをしている。	独自のアセスメント様式には、趣味や日課、羞恥心等の項目が設けられており、ライフスタイルの継続やプライバシーを損ねない対応について、根拠となる情報収集が行われている。内外の研修機会が確保されており、職員は意識を高めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつなどは配膳せずに、入居者間で分けられるように見守っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人のタイムスケジュールは基本的にケアプランに反映されているが、その日の要望や天候、体調によって変更し散歩などを楽しんだりしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の更衣、洗顔や入浴後の整髪等、身だしなみには注意を払っており、食べこぼしで衣類が汚れた場合などはすぐに着替えるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備ができる方は準備を、片づけができる方は片づけを、テーブル拭きができる方はテーブル拭きを、などと役割分担ができています。	法人厨房にて調理され、炊飯のみホームで行っている。品数も多く、小鉢を多く用いる等、視覚からも食事を楽しめるよう支援している。個別の希望に応じた外食に出かける機会も多い。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスのとれた献立、食材の好き嫌いを把握した提供方法の工夫等をして、水分は1日に1500ccを目標に摂れている。		

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	「歯磨き」という意識ではなく、「口腔ケア」という意識でケアをおこなっている。自立して行っている方も一日に1回は、職員が口腔ケアをしている。歯医者との定期受診もしており、「ここの入居者はみんなケアが行き届いている！」と評されている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居から年月が経過した方は高齢になってきているが、日中はトイレでの排泄を実施するため、声かけや個別の定時時間の設定を決めて、2名介助でトイレ誘導をするなどしている。	排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握に努めている。日中は基本的にトイレでの排泄を支援し、夜間は個別の状況を検討し、対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者の服薬で一番多いのが便秘薬であるが、なるべく服用しないで済むよう、個々に応じた運動や十分な水分で対応できるようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室は個室であり個別入浴であるため、体調等を見ながら入浴時間を考慮している。夏場は入浴時間を9時半～19時に幅をもって設けている。	2日に1回程度の基本的な入浴日の設定は行なわれているが、毎日入浴準備を行っており、時間帯も含めて柔軟な対応が可能である。希望があれば、毎日の入浴も可能である。個別の状況に応じて、職員2名体制での介助を行い、ゆっくりと入浴できるよう支援している。夕方、外出した際などは、夜間のシャワー浴等も支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たい時間に眠れるように支援しているが、基本的には日中は活動し、夜間に眠れるよう昼夜逆転がないようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケアプラン、カンファレンス等に会議で全職員に説明しており、抗精神病薬などを服薬しているときは、様子を細かく医師に報告している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに役割を取り込んでおり、できることはやっていただき、できないことは支援している。		

福岡県 グループホーム 八幡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により買い物や散髪など個別の外出に対応しており、春や秋等天候のいい季節にはドライブなども企画し、その日の天候や体調を考慮に入れ行き先等も柔軟に考えている。	日々の散歩や旅行の実現等も介護計画の中に位置付けながら、個別の支援が行われている。区役所に用件がある場合にはともに出かけたり、理・美容や買い物、外食等も地域の店を活用している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額はご家族やホームでお預かりしているが、小銭はご本人が管理して、買い物や自販機などで使用している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればご家族に電話をかける支援をしている。また、遠方のご家族と手紙のやりとりをしている入居者もあり、嬉しくて何時間も手紙を読み返している方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分特に水回りの台所、便所、浴室は不潔になり易いので清掃には力を入れている。居間は屋間長く過ごす場所なので、室内温度は一定に保つよう調節し、常時テレビをつけっ放しにせず見る時間、静かな時間、BGMだけの時間をとっている。	2ユニットが回廊でつながり、ゆとりある広さが確保されている。ベランダへもバリアフリーで出ることが出来、周囲の様子を眺めることが出来たり、避難時にも有効である。障子の設置により適度な明るさに配慮され、浴室やトイレの場所もわかりやすく表示されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの座席位置は孤立をしなくて済む配置を考えている。独りになることができる時間も確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていたものをそのまま持ち込んでいただくようにしており、新調はなるべくしないで済むように努めている。	居室の入口部分のみフローリングとなり、洗面台が設置されている。畳敷きにベッドや布団が選択され、個別の状況に対応している。仏壇や鏡台、筆筒等が持ち込まれ、生活感ある居室が多い。固定電話の設置が可能であり、実際に活用されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩、歩行器、車椅子レベルが混在して生活を送っているが、常に見守りを行い、徘徊がある人は付き添って歩いている。		